

日本語・イタリア語対照研究

— 「古 - / 旧 - 」 vs. 「antico / vecchio」 —

古 浦 敏 生

§1 はじめに

筆者は長年にわたり、日本語とイタリア語の対照研究を推進してきた。今回は「古い」という意味を表わす日本語の接頭辞「古- / 旧-」とイタリア語の形容詞「antico / vecchio」の対応を検討してみようと思う。

『広辞苑』によれば、“接頭辞「古-」は、「或語に冠して古い意をあらわす語」。接頭辞「旧-」は、「或語に冠し、ふるい意を示す語」(原文のまま)”とある。したがって、両者は同義語ということになるであろう。

小林 (1977) p. 866 & p. 190によれば、「古」は“①昔。②ひさしい。③古くする。④昔の人。先人。⑤昔の法。”とある。そして、「旧」は“①ふるい。①久しく時がたった。②ふるびている。③珍しくない。②もともと。もともと。③むかし。④ふるなじみ。古くからの交わり。⑤老人。(原文のまま)”とある。タイトルに示したように、本稿では、形容詞の対照を試みたいので、これらの意味のうち、名詞や動詞や副詞の意味は取り扱わないことにして、形容詞の意味を有する名詞句のみを追究していきたいと思う。

antico と vecchio に関して言えば、どちらも「古い」という意味のイタリア語の形容詞である。但し、秋山 (2011) p.69によれば、“antico はおもに歴史や時代のうえで「昔の、古い」という意味で、vecchio は広くものの性質について「古い」という意味で用いる。また、vecchio は人間について「年老いた」という意味でも用いる”とある。

また、池田 (1999) p.89によれば、“antico は主に「昔の」「非常に古い」「古代の」を指し、vecchio は「年とった」「古い」を意味する。il libro antico が主に「珍しい古書」を指すのに対し、il libro vecchio は「使い古した本」または「古書」を指す。なお、antico の反対語は moderno で、vecchio の反対語は nuovo となる”とある。

また、和田・西川 (2008) p.1421によれば、“形容詞 vecchio は、ふつう修飾する名詞の前に置かれるが、後置されると異なる意味合いをもつことがある。たとえば、una vecchia questione 「古くからある問題 (ずっと以前からある問題)」、una questione vecchia 「古くなった問題 (古びて、もう扱われなくなった問題)」”とある。

坂本 (1979) pp.68-69 には “vecchio と同じようなふるまいをする形容詞として bravo,

buono, certo, galante, gentile, grande, nuovo, povero, semplice がある。たとえば、una certa cosa 「或ること」 vs. una cosa certa 「確実なこと」など”とされている。但し、antico はこの種の形容詞には含まれていない。念のため、antico が同じ名詞を修飾していて、その名詞の前に置かれても、また、後ろに置かれても意味に差の生じない用例を探した。

le antiche civiltà del Mediterraneo 「古代地中海文明」『F-D413』『伊和 331』
civiltà antica 「古代文明」(Zingarelli1983,p.380) 『伊和 331』『白和 367』

この二つの場合、antico は同じ名詞 civiltà 「文明」を前後から修飾していて、しかも、意味の差は生じていない。したがって、本稿では、形容詞の前置・後置の区別は、vecchio が現われる場合に絞って検討することとする。

以上の先行記述を踏まえて、本稿では以下の 5 種のテーマを中心に分析を進めよう。

《テーマ 1》日本語の 2 種類の接頭辞は、イタリア語の 2 種類の形容詞とどのような対応を見せているのか？

《テーマ 2》「antico / vecchio」に修飾された固有名詞（遺跡・建物・道路・橋など）のうち、およその建設年が判明している場合、その「古さ」の程度はどうか？

《テーマ 3》「古ー/旧ー」・「antico / vecchio」に修飾されたどの名詞句が「年代ものとして価値の高い（プラス・イメージの）もの」であるのか？それとも、「古くて価値の低い（マイナス・イメージの）もの」であるのか？

《テーマ 4》vecchio が同じ名詞を修飾する場合、名詞に前置されるか後置されるかによって意味にどのような差が生ずるであろうか？その際、その同じ名詞を antico が修飾すると如何なる意味が現われるのか？

《テーマ 5》「古ー/旧ー」が同じ名詞を修飾する場合、意味にどのような差が生ずるであろうか？

§ 2 用例

ここでデータ収集のための資料とその略号を提示しておこう。略号の後ろの数字は出現ページ数である。形容詞 vecchio は (antico と違って)、それが修飾する名詞に前置されるか、後置されるかによって、異なった意味を持つことがあるので、分析の都合上、用例の左端に《前置》・《後置》の印を付すことにする。

なお、対応を示していない用例（たとえば、「古典」 vs. opera classica 『和伊 550』、「旧年」 vs. anno scorso 『和伊 386』、「老松」 vs. vecchio pino 『伊和 1686』、「コジモ I 世」 vs. Cosimo il Vecchio 『伊々 1924』）も多数存在するが、煩瑣になるので、本稿では割愛する。

『伊和』：池田廉ほか編『伊和中辞典』第 2 版、1999、小学館

『金田一』：金田一京助ほか編『新選国語辞典』新版、1982、小学館

『白和』：坂本鉄男編『和伊辞典』1988、白水社

『和伊』：和田忠彦監修・西川一郎編『和伊中辞典』第 2 版、2008、小学館

『伊々』：Dizionario Garzanti della lingua italiana, XII^a ed.1974

『伊仏』: *Dizionario Garzanti, francese-italiano, italiano-francese*, IX^a ed. 1974

『Pal』: Palazzi, F. : *Novissimo dizionario della lingua italiana*, edizione a cura di G. Folena, 1975, Milano

『F-D』: De Felice, E. & Duro, A. : *Dizionario della lingua e civiltà italiana contemporanea*, 1975, Palumbo

『伊英』: *Grande dizionario Hazon Garzanti, inglese-italiano, italiano-inglese*, XXII^a ed. 1976

『D-O』: Devoto, G. & Oli, G. C. : *Dizionario della lingua italiana*, XX^a ed. 1987, Firenze

(1) 「古ー」が *antico* と対応している場合

古イタリア語 vs. *italiano antico* 『F-D127』

古語 vs. *parola antica* 『和伊 537』

古銭 vs. *moneta antica* 『和伊 545』

古戦場 vs. *luogo di antica battaglia* 『和伊 545』

古代 vs. *tempi antichi* 『和伊 546』

古代 vs. *evo antico* 『伊和 583』

古代 vs. *età antica* 『伊和 579』

古フランス文学 vs. *letteratura francese antica* 『F-D127』

古墳 vs. *antica tomba* 『和伊 558』

(2) 「旧ー」が *antico* と対応している場合

旧貴族 vs. *antica nobiltà* 『伊和 89』

旧習 vs. *modi antichi* 『伊和 89』

旧制度 vs. *istituzione antica* 『F-D127』

旧大陸 vs. *continente antico* 『伊仏 1056』

旧都 vs. *antica capitale* 『和伊 385』

(3) 「古ー」が *vecchio* と対応している場合

《後置》古米 vs. *riso vecchio* 『和伊 560』

《前置》古家 vs. *vecchia casa* 『伊和 1687』

《前置》古傷 vs. *vecchia ferita* 『和伊 1422』

《後置》古靴 vs. *scarpe vecchie* 『伊英 2060』

《後置》古新聞 vs. *giornale vecchio* 『伊和 1687』

《前置》古巢 vs. *vecchia casa* 『和伊 1422』

《前置》古狸 vs. *vecchia volpe* 『和伊 1422』

《後置》古本 vs. *libri vecchi* 『伊和 1687』

(4) 「旧ー」が *vecchio* と対応している場合

《前置》旧恩 vs. *vecchia gentilezza* 『和伊 381』

《前置》旧家 vs. *vecchia famiglia* 『伊仏 1988』

- 《前置》旧型 vs. vecchio modello 『和伊 382』
 《前置》旧居 vs. vecchia casa 『白和 253』
 《後置》旧市街 vs. quartiere vecchio 『和伊 383』
 《前置》旧市街 vs. vecchio centro 『F・D2159』
 《前置》旧式 vs. vecchio modello 『和伊 383』
 《前置》旧姓 vs. vecchio cognome 『和伊 384』
 《前置》旧制 vs. vecchio sistema 『和伊 384』
 《前置》旧世界 vs. Vecchio Mondo 『和伊 384』
 《前置》旧態 vs. vecchia maniera 『和伊 385』
 《前置》旧体制 vs. vecchio sistema 『和伊 385』
 《前置》旧大陸 vs. Vecchio Continente 『和伊 385』
 《前置》旧知 vs. vecchia conoscenza 『和伊 385』
 《前置》旧版 vs. vecchia edizione 『和伊 386』
 《後置》旧聞 vs. notizie vecchie 『和伊 386』
 《前置》旧弊 vs. vecchi abusi 『和伊 386』
 《前置》旧友 vs. vecchio amico 『和伊 387』

§ 3 《テーマ 1》に関する分析

まず、《テーマ 1》の解決のために、第 1 表を作成した。この表から、“対応関係を示した用例は全体で 40 例見つかった。このうち、「古ー」が vecchio に対応している用例数は 8 であった。また、「旧ー」が antico に対応している用例数は 5 であった。”などのことが分かる。

第 1 表

対応関係	<u>antico</u> に対応	<u>vecchio</u> に対応	計
古ー	9	8	17
旧ー	5	18	23
計	14	26	40

第 1 表から、“「古ー」に関しては、何らの傾向も認められない。しかし、「旧ー」は vecchio に対応するケースが多い (18/23=78.3%)” と言えそうである。

次に、「古ー」と「旧ー」が vecchio に対応するケースに着目し、名詞・形容詞の語順を考慮して、第 2 表を作成した。

第 2 表

名詞・形容詞の語順	<u>vecchio</u> + 名詞	名詞 + <u>vecchio</u>	計
古ー	4	4	8
旧ー	16	2	18
計	20	6	26

第2表から、“「古ー」が「名詞+vecchio」に対応している用例数は4であった。そして、「旧ー」が「vecchio+名詞」に対応している用例数は16であった”などのことが分かる。そして、“「古ー」の語順に関しては、何らの傾向も認められない。しかし、「旧ー」は「vecchio+名詞」の語順(16/18=88.9%)となる場合が多い”と言えそうである。

§4 《テーマ2》に関する分析

《テーマ2》の解決のために、以下の資料を提示しておこう。なお、以下の都市・建造物は、ネット検索などによると、着工から完成までの間にかかなりの幅があるので、世紀単位でおよその数字を記しておくことにする。

Arsenale Antico 「アルセナーレ・アンティーコ(古海軍造船所)」(シチリア州シラクーザ) B.C.3世紀

Noto Antica 「ノート・アンティーカ」(シチリア州ノート) B.C.5世紀

Ostia Antica 「オスティア・アンティーカ(古代ローマの外港)」(ローマ近郊) B.C.4世紀

Via Appia Antica 「ヴィーア・アッピア・アンティーカ(旧アッピア街道)」(ローマ) B.C.4世紀

Arsenale Vecchio 「アルセナーレ・ヴェッキオ(古海軍造船所)」(ヴェネツィア) 12世紀

Caserta Vecchia 「カゼルタ・ヴェッキア」(カンパーニア州カゼルタ) 9世紀

Castelvecchio 「カステルヴェッキオ」(ヴェローナ) 14世紀

Fabbriche Vecchie 「ファブブリケ・ヴェッキエ(商業取締りの司法機関)」(ヴェネツィア) 16世紀

Libreria Vecchia 「リブレリア・ヴェッキア(サンマルコ旧図書館)」(ヴェネツィア) 16世紀

Palazzo Vecchio 「パラッツォ・ヴェッキオ(ヴェッキオ宮殿)」(フィレンツェ) 14世紀

Ponte Vecchio 「ポンテ・ヴェッキオ」(フィレンツェ) 14世紀

Procuratie Vecchie 「プロクラティエ・ヴェッキエ(財務執政官の仕事場と住居)」(ヴェネツィア) 12世紀

以上、anticoに修飾された固有名詞4例と、vecchioに修飾された固有名詞8例を列記した。その結果、前者はすべて紀元前に、後者はすべて紀元後に着工・建設されたものであることが判明した。この「紀元前か?紀元後か?」という区別が、果たしてanticoとvecchioとの分岐点(注1)であるのかどうかに関しては、紀元前後の微妙な時期の建設物の用例が見つからないので、確定的なことは言えない。しかし、anticoのほうがvecchioよりもより時期的に古いということは言えそうである。

§5 《テーマ3》に関する分析

《テーマ3》の解決のために、以下の資料を提示する。なお、分析の都合上、vecchioに関しては、それが修飾する名詞に前置されているか、後置されているか、も明記しておこう。

(1) 「古ー」がプラス・イメージの場合

古典：長い年月を経て、高い文化的価値を持っている作品
古道：古くからある道路（世界遺産の「熊野古道」を参照）
古兵（ふるつわもの）：歴戦の武士、経験豊富なベテラン

(2) 「古ー」がマイナス・イメージの場合

古着：着古した衣服
古靴：使い古したボロ靴
古新聞：廃品としての古い新聞

(3) 「旧ー」がプラス・イメージの場合

旧家：昔からその土地に代々続いてきた家
旧跡：昔、有名な物事のあった跡
旧友：古くからの友人

(4) 「旧ー」がマイナス・イメージの場合

旧型：古い型（車両の「新型」と対比）
旧館：新しい建物ができる前の古い建物（ホテルの「新館」と対比）
旧版：版を改める前の元の版（辞典の「新版」と対比）

(5) antico がプラス・イメージの場合

antica nobilit ：旧貴族 『伊和 89』
monumento antico：歴史的記念物 『伊英 1097』
uomo antico：律儀な男 『Pal. 90』

(6) antico がマイナス・イメージの場合

antico amico：昔の友（現在は友ではない） 『伊和 89』（注 2）
antico amore：昔の恋（現在は恋していない）（注 3）
vestito antico：流行おくれの衣服（注 4）

(7) vecchio がプラス・イメージの場合

《前置》vecchia famiglia：旧家 『伊仏 1988』
《前置》vecchio amico：旧友（古くからの友、現在も友である） 『和伊 387』
《後置》vino vecchio：よく寝かせたワイン 『伊和 1687』（注 5）

(8) vecchio がマイナス・イメージの場合

《後置》giornale vecchio：古新聞 『伊和 1687』
《後置》scarpe vecchie：古靴 『伊英 2060』
《前置》vecchio modello：旧型 『和伊 382』

以上、検討の結果、「古ー」・「旧ー」・antico・vecchioに修飾された名詞句はいずれも、プラス・イメージもマイナス・イメージも存在することが分かった。また、vecchioが名詞に前置されても、名詞に後置されても、その名詞句にはプラス・イメージもマイナス・イメージも現われることが分かった。

§ 6 《テーマ 4》に関する分析

《テーマ 4》に関して、Dardano & Trifone (1990) p.133 は、“In italiano l'aggettivo qualificativo può essere collocato sia prima del sostantivo sia dopo ; molto spesso , anzi, cambia di significato col variare della sua posizione. 「イタリア語では、品質形容詞は時には名詞の前に、時には名詞の後ろに置かれる。というよりもむしろ、品質形容詞はその位置を変えることによって、しばしば意味を変える” と述べ、次の例文を引用している。

(例 1) Prendi la strada vecchia, è più breve della nuova. 「君は旧道を行きなさい。(旧道のほうが)新道よりも距離が短いだから」

(例 2) La vecchia strada s'arrampicava per la montagna. 「古い道が山へと登っていた」

そして、“vecchio が名詞に後置された(例 1)では *funzione distintiva (restrittiva)* 「弁別的(制限的)機能」が働いていて、vecchio が名詞に前置された(例 2)では、*funzione accessoria, descrittiva (non-restrittiva)* 「補助的・記述的(非制限的)機能」が働いている” としている。つまり、(例 1)の「古い道」は「新道」と対比された弁別的な「古い道・旧道」であり、(例 2)の「古い道」は、「新道」と対比されることなく、単に「古い道」なのである。

ここで、この種の用例を列記しておこう。

(例 3 a) amico vecchio 「年老いた友人」

(例 3 b) vecchio amico 「古くからの友人 (現在も友である)」 『和伊 387』

(例 3 c) antico amico 「昔の友 (現在は友ではない)」 『伊和 89』

(例 4 a) libro vecchio 「古本 (「新本」との対比で、使い古した本)」 『伊和 89』 & 『伊和 1687』

(例 4 b) vecchio libro 「古書 (刊行年の古い本)」 『和伊 543』

(例 4 c) libro antico 「古書 (珍しい古書)」 『伊和 89』

(例 3) (例 4) のように、形容詞と名詞の位置によって、意味にかなりの差が生ずる場合が多いのであるが、ほとんど意味に差の生じない場合もある。たとえば、

(例 5 a) Antico Testamento 「旧約聖書」 『和伊 387』 & 『伊和 1606』

(例 5 b) Vecchio Testamento 「旧約聖書」 『伊和 1687』 & 『和伊 387』 & 『D-O2628』

但し、Antico Testamento は「紀元前に遡る非常に古い聖書、すなわち、旧約聖書」という意味であって、Vecchio Testamento は「Nuovo Testamento 「新約聖書」 『伊和 1606』と対比して古い聖書、すなわち、旧約聖書」という意味であろうと思考する。

序ながら、フィレンツェの Palazzo Vecchio 「ヴェッキオ宮殿」は、一時期、コジモ I 世の住居であったが、後に住居がアルノ川対岸の Palazzo Pitti 「ピッティ宮殿 = 新宮殿」に移されたため、「古い宮殿」と呼ばれるようになった。また、フィレンツェの Ponte Vecchio 「ヴェッキオ橋」も、フィレンツェ最古の橋なので、ほかの新しい橋と区別して、「古い橋」と呼ばれるようになった。これら固有名詞の場合でも、vecchio が名詞に後置されると、弁別的な意味で使用されている。

§7 《テーマ5》に関する分析

ここで、「古ー／旧ー」が同じ名詞を修飾する場合について検討してみよう。

(例6a) 古式：昔の方式。ふるい方法。『金田一 374』

(例6b) 旧式：ふるい型や、やりかた『金田一 263』

(例7a) 古人：昔の人。『金田一 376』

(例7b) 旧人：古くからの人。あたらしみのない人。『金田一 264』

(例8a) 古跡：歴史上のできごとのあった場所。旧跡。『金田一 377』

(例8b) 旧跡：昔、有名な物ごとのあったあと。『金田一 264』

(例9a) 古都：昔のみやこ。旧都。『金田一 382』

(例9b) 旧都：昔のみやこ。古都。『金田一 265』

(例10a) 古道：ふるくからある道路。『金田一 382』

(例10b) 旧道：昔からある道。ふるい道。『金田一 265』

(例11a) 古風：昔のすがた。ふるいならわし。ふるくさいこと。『金田一 386』

(例11b) 旧風：古いしきたり。昔の風習。『金田一 266』

(例12a) 古来：昔から。『金田一 391』

(例12b) 旧来：古くから。従来。『金田一 266』

(例7a)の「古人」は既に亡くなった人であるが、(例7b)の「旧人」は必ずしも亡くなった人とは限らない。しかし、(例8a b)の「古跡」と「旧跡」、(例9a b)の「古都」と「旧都」はほぼ同義であろう。このほか、(例6b)の「旧式」・(例7b)の「旧人」・(例10b)の「旧道」は、「古式」・「古人」・「古道」と異なり、それぞれ「新式」・「新人」・「新道」と対比された表現である。また、(例12a b)の「古来」と「旧来」であるが、「古来」のほうが「旧来」よりも時代が古そうである。このように、明確な差や微妙な差が認められる場合もあれば、ほぼ同義の場合もあり、さまざまなヴァリエーションが存在する。

§8 まとめ

最後に、本稿で明らかになったことを列記しておこう。

- (1) 「旧ー」は *vecchio* に対応する場合が多い。(第1表参照)。
- (2) 「旧ー」に対応するイタリア語の名詞句は、「*vecchio*+名詞」の語順となる傾向がある(第2表参照)。
- (3) *antico* に修飾された固有名詞はすべて紀元前に、*vecchio* に修飾された固有名詞はすべて紀元後に着工・建設されたものである
- (4) 「古ー」・「旧ー」・*antico*・*vecchio* に修飾された名詞句は、いずれの場合でも、プラス・イメージもマイナス・イメージも存在する。そして、この際、*vecchio* が名詞に前置されても、名詞に後置されても、その名詞句にはプラス・イメージもマイナス・イメージも現われる。
- (5) Dardano & Trifone は、“*vecchio* が名詞の後ろに置かれると弁別的機能 (*funzione*

restrittiva) を持つ” としている (§6 (例 1) (例 2) 参照)。しかし、vecchio が名詞の前に置かれた Vecchio Testamento は、「Nuovo Testamento 「新約聖書」と対比して古い聖書、すなわち、旧約聖書」という意味であると思われるので、事態は単純ではない。

(6) 日本語においても、同じ名詞が「古ー」または「旧ー」に修飾される時、明確な意味の差を示す場合 (たとえば、「古人」vs. 「旧人」) もあれば、ほぼ同義の場合 (たとえば、「古都」vs. 「旧都」) もあって、事態は複雑である。(§7 (例 7ab) (例 9ab) 参照)。

注

(注 1) antico と同源の英語の ancient には「古代の、(特に) 西ローマ帝国の滅亡 (476 年) 以前の」という意味があるとされている。(『ランダムハウス英和辞典』パーソナル版、vol. I、1966、小学館、p.96)

(注 2) antico と同源のフランス語の ancien は名詞の前に位置するか後に位置するかによって意味が違ふことがある。(前置された) un ancien ami 「かつての友だち」は今は友だちでないのに対し、(後置された) un ami ancien 「旧友」はずっと以前からの友だちということになる。(西村牧夫・鳥居正文ほか編訳『ロベール・クレ仏和辞典』2011、駿河台出版社 p.45)

(注 3) 秋山余思監修『プリーモ伊和辞典』2011、白水社、p.69

(注 4) *Langenscheits Handwörterbuch, Italienisch·Deutsch, Deutsch·Italienisch*, 1972·74, p.56 によれば、“altmodisches Kleid 「流行遅れの衣服」” の訳が付されている。

(注 5) 「長時間大切に保存された」というプラス・イメージの用例は多数存在する。

formaggio vecchio : よく寝かせたチーズ『F·D2159』

grano vecchio : 十分に乾燥させた小麦『伊々1924』

legno vecchio : よく乾燥させた木材『F·D2159』

なお、フランス語でも vin vieux 「年代物のワイン」では、vecchio に該当する vieux が後置されている。(西村・鳥居 2011、p.1257)

参考文献 (§2 で資料として提示したものは除く)

秋山余思監修『プリーモ伊和辞典』2011、白水社

古浦敏生『日本語・イタリア語対照研究』2008、文流

小林信明『新選 漢和辞典』新版、1977、小学館

坂本鉄男『現代イタリア文法』1979、白水社

新村出編『広辞苑』第1版第23刷、1967、岩波書店

『世界遺産』No.7 「フィレンツェの歴史地区」2000、講談社

西村牧夫・鳥居正文ほか編訳『ロベール・クレ仏和辞典』2011、駿河台出版社

『ランダムハウス英和辞典』パーソナル版、vol. I、1966、小学館

渡部雄吉・須賀敦子・中嶋和郎『ヴェネツィア案内』1996、新潮社

Dardano, M. & Trifone, P. : *La lingua italiana*, 1990, Zanichelli
Touring Club Italiano : *Guida rapida*, vol.I,II,III, 1966, Milano
Zingarelli, N. : *Il nuovo Zingarelli—vocabolario della lingua italiana*, 11^a ed.
1983, Bologna

付記

西村暢夫『イタリア食文化こぼれ話』2013、文流、p.119に“トスカーナには *Amico e vino vogliono essere vecchi*.という言葉がある。「友達とワインは古い方がよい」という意味である。私はこの諺を尊敬する先輩の池田廉教授から教わった。味わい深い諺である。”とある。ここの *amico* 「友」と *vino* 「ワイン」であるが、前者は *vecchio amico* として、後者は *vino vecchio* として解釈すべきであろう。